

お坊さんからの手紙、十九通目(平成二十六年九月)

季節は巡り、浄泉寺には大自然からの秋の便りが少しずつ届いております。八月には、「お坊さんと夏の思い出」と題したイベントを浄泉寺にて開催しました。小雨の降る中、五十名を越えるお坊さんが参加下さり、笑い声のこだまする賑やかな一日となりました。

お坊さんと夏の思い出

皆が気軽に集え、活力を与えてくれるお寺でありたいとの願いから、季節ごとにこのようなイベントを開催しています。今回も充実の内容で、お越し下さった皆さまに喜んでお帰りをいただくことができました。

夏の風物詩といえど「とうめん流し」ですが、浄泉寺では「とうめん」ではなく「うどん」を流します。大きな竹で作られたバンブースライダーを門司港のうどん屋「ちよとこ」さん特製のシリルうどんが流れていき、初めて見るその光景に歓声があがり、食べたうどんの美味しさには目が笑顔になりました。枝豆やミニトマト、白玉やブドウを流すと、思うようにつかむことができない次々にまた実が起り、子どもも大人も大盛り上がりでした。

他にも、手作りシロップを使ったカキ氷にスタカ割り、本堂ではパステルカラーで自身の心象模様を描いていく体験講座、自分だけの「おまじない」やペットボトル空気砲作り、つくばとさんによるアトリッシュボイスルの「コミュニケーション」など、どの場所でも生き生きとした笑顔が溢れ、人々が関わり合うことによる生まれる、理屈を越えた体験の素晴らしさを改めて実感させられました。

夢見たワニシーン

子ども達は、何をするにしても素直であり、一生懸命です。子どもが喜び、大人も喜びを感じます。

お寺で子どもが元気に遊ぶ。親子の関係だけではなく、そこにいる大人が一緒に楽しむ子ども達と楽しむ。

その場には、子どもにも大人にも、かけがえのない学びのチャンスがあるように感じます。

私が、ずっとお寺に想い描いてこいふとつなぐ。

一日だけではありますが、その「夢見たワニシーン」が、現実となったことを本当に嬉しく思っています。

お寺の可能性

世代や性別など関係なく、たくさんの方が集まり笑顔で過ごします。そのような場ができれば、お寺に集うことが喜びとなり、楽しみながら仏さまの教えにふれ、学ぶことができます。私はそうしたい中、「本当のしあわせとは何なのか？」と共に考え、その目標に向かって一緒に生きようとする人達を育んでいきたいと願っています。そして、こうした場としてお寺が開かなくては、必ずお寺が多くの人々のよりどころとしてお役に立ちたいと信じています。そのようなお寺の在り方を目指し、これから取り組んでいこうとこのイベントを通じてまた強く固めました。

